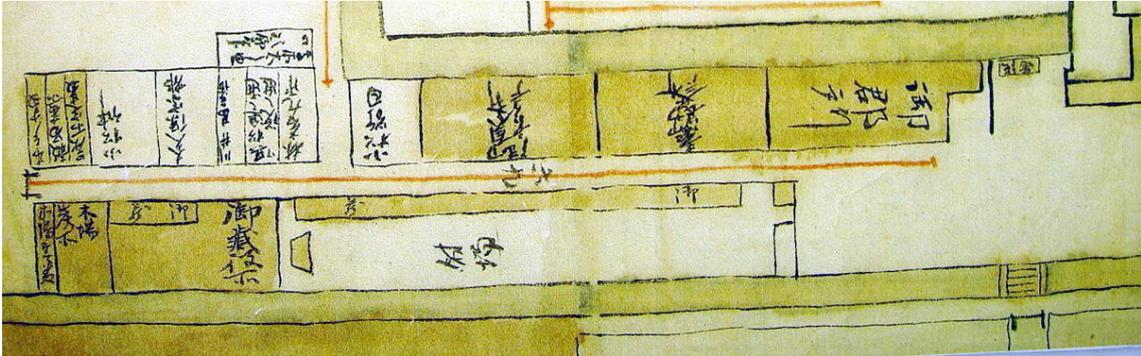


## 城下町探訪 3

2009/4/16

# 六九官庁街



幕末の六九町の道より北側は東から御郡所・表勘定所・御預役所が並びそれより西は武家屋敷であった。藩の馬術指南小松仲の屋敷も見える。六九町東側は主として官庁街であった。

享保 12 年（1727）1 月本丸御殿が全焼した。諸所狭いため享保 12 年 3 月二の丸にあった町所を六九北側東橋に東向きに新築して機能を移し、延享 4 年（1747）東門の外にあった郡所を移し六九南側東端に建てた。寛保 3 年（1743）筑摩・佐久・伊那・小県 4 郡の内、幕府領 159 ヶ村（53, 292 石余）を松本藩が預かったので六九町に御預役所が造られた。

### ①御郡所(郡所兼町所)

安永 5 年（1776）年いわゆる綿屋火事で六九町は焼失した。その際、郡所は町所の焼け跡に移転し、町所はその西側に建てられたが、安永 8 年（1779）二月両役所を合併して御郡所とした。

宗門方・値段方・川除方等の分課があり、数名の同心は町回りを兼ね町内の警邏をした。郡所には大町部屋（松川組を含）・池田部屋（山家組を含）・岡田部屋（長尾組、穂高組、成相組を含）



(六九町 郡所のあった場所)

庄内部屋(高出組、島立組、上野組を含)の4部屋があり代官が分担してその地区の政務を担当した。

## ② 表勘定所<sup>おもてかんじょうしょ</sup>

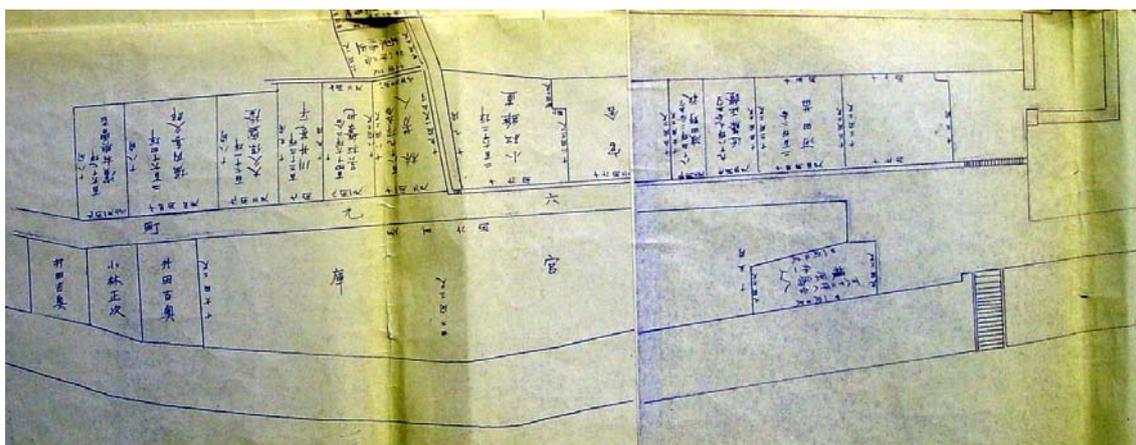
六九町の北側、郡所の西側に建つ。天保9年(1838)二の丸御殿より移転し表勘定所と称した。(御勘定所とは勝手方勘定所で領主の生活に関わった会計を担当した)領内の年貢収納、藩の支出会計を担当した。山方役所を合併して山林の諸政を行い、紺屋・綿打ち・商札・薬種・質営業の出願に対する許可等を担当した。表勘定所には六九町南側の厩跡に建てられた万俵蔵並びに蔵役所があり年貢の收受と藩士への扶持知行の配給を掌った。その西の木場役所は薪炭材木の管理、土人への配給方を掌った。炭小屋は道路を隔てて北側にあった。



(平成14年 郡所跡の発掘)

## ③ 預(役)所<sup>あずかりやくしょ</sup>

表勘定所の西にあり松本藩の所管に関わる幕府領(お預領)の管理を行った。伊那部屋(塩尻組を含)川手部屋(出川、和田組を含)会田部屋(麻績組、坂北組)の区分があった。遠くは佐久郡平賀に松本藩出張陣屋がありそれぞれに各地域の政務を担当した。預所は必要に応じ公事方(訴訟関係)記録方を設けて政務を行った。



(明治5年松本侍町絵図より)

明治5年の六九町の状況は郡所は空き屋、表勘定所は三人の屋敷となっている。預役所は官舎となっている。明治12年郡制が施行されると御預役所を東筑摩郡役所とした。(明治35年まで)六九町入り口の郡所の場所は旅館となった。